

# 東建パブリリニュース

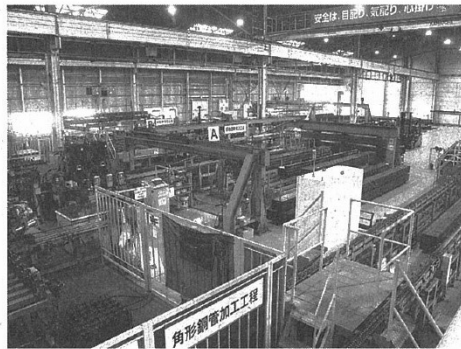
2020年3月9日

経営管理本部 広報IR室

《このニュースは、当社に関連する記事が掲載された新聞・雑誌等の情報を逐次、速報するものです。》

**掲載** 2020年2月20日 日刊産業新聞 P.5

●当社に関する記事の掲載がありましたので、以下の通りご報告いたします。



薄肉化に対応した加工ライン

## ナスラック

シエル  
神戸工場

## ライン改修、薄肉対応

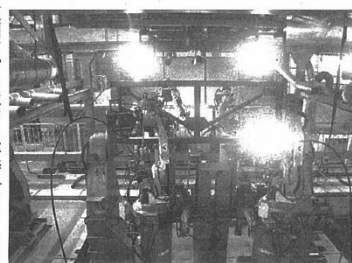
# 鉄骨部材を完全内製化

【名古屋】東建コーポレーションのグループ企業であるナスラック（本社：名古屋市長区、左田善雄社長）は、東建コーポレーションの主力商品である高耐震鉄骨造アパート「シエル神戸工場（神戸市西区）」向け重層鉄骨部材などを製作する「シエル神戸工場（神戸市西区）」の鉄骨部材製作で、完全内製化を実現した。部材板厚の薄肉化に対応し、ライン改修を実施したもので、従来以上に納期に最適な部材製作、供給を可能とすることで、在庫や外注コストの圧縮、納期短縮などの効果につなげ、東建コーポレーションの製品販売への貢献度を高めていく。

## コスト削減、納期短縮

シエル神戸工場は、シエルシリーズ向けの高耐久フレーム、制震フレームおよび

び外壁、パネル下地材、柱・プレス、C型鋼製、造工程のBラインに分割され、それぞれ切断、



溶接ロボットの制御機能も改修

穴開け、ロボット溶接などを行う。部材のラインへの搬入出などにもハンドリングロボットを活用し、自動化ラインによる効率的な生産を徹底している。

同工場で生産する製品の柱材には従来、肉厚3・2ミリの100ミリの角パイプがメインに使われ、一部肉厚2・3ミリの柱の製作を外注で対応していた。しかし、昨年ごろから耐震パネルに制震機

能も盛り込んだ「シエル」や「シエルユーロピ」などの新モデル向けの生産が増加。同モデルの柱が肉厚2・3ミリの重層化が施されているため、外注製作が増加し、そのコスト負担が増大する。納期対応を考慮した先遣りによる部材在庫の増加も課題となっていた。

その解消に向け、シビアな数値制御が必要な溶接ロボットなどへの対応を図るため、ライン全体のハンコン、ロボット、制御回路、加工機器を改修。板厚2・3ミリの部材の完全内製化能力を確保した。

また、工場内に設備関連の専門担当も専任。設備業者などの折衝や設備・システム保守、メンテナンスに従事し、予防保全の徹底でトラブルなどによる設備停止を未然に防ぎ、稼働の安定性も高めている。

これらの取り組みにより、東建コーポレーションの製品早期に合わせた最適なタイミングでの部材供給を行うことで、最終需要家である施主のニーズへの対応力を高め、シエルシリーズなどの販売に貢献していく。